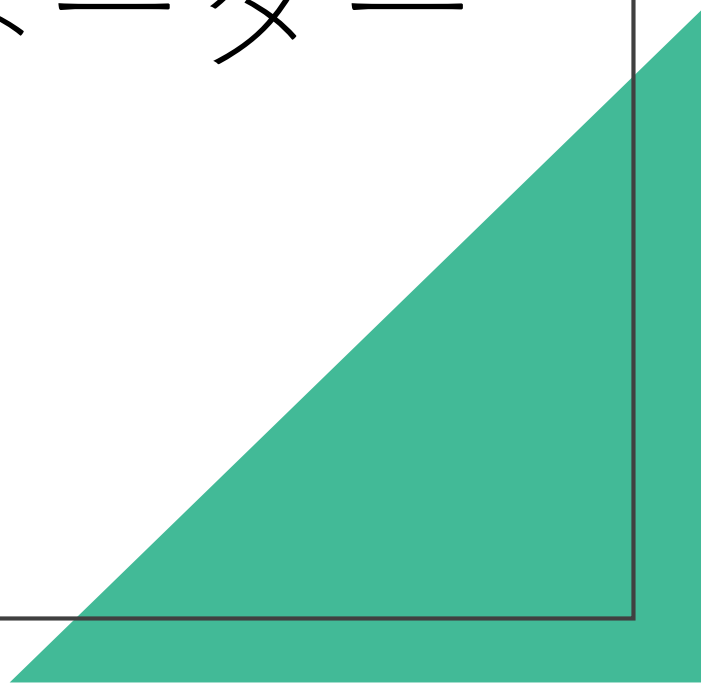


農福連携推進アドバイザー 農福連携促進コーディネーター 状況と課題

一般社団法人こうち絆ファーム 北村浩彦



農福連携推進アドバイザー

農福連携推進アドバイザー 状況

開催日時	会議名	参加人数	事業主体	講師
2024年1月26日	第四回東農福座談会	47名	高知県中央東農業振興センター	高松矯正管区
2024年2月27日	第五回東農福座談会	28名	高知県中央東農業振興センター	谷川照美氏
2024年3月13日	東農福座談会振り返り	4名	高知県中央東農業振興センター	
2024年4月19日	第六回東農福座談会	53名	高知県中央東農業振興センター	いの町 ほけん福祉課 社協

- ・ 合計4回 農福連携についての地域理解の促進につながる会合へ出席
- ・ 4回の開催で延べ人数128名の出席者となった。
- ・ 農家、事業所、行政、法務省、民間企業など様々な機関が参加し活発に意見交換を行う中で現場での困りごとに対する意見に自信の経験からアドバイスを実施。また、連携機関から検察庁、高松矯正管区、いの町保健師をお招きし好事例の情報発信と同時に連携拡大の役割を担った。

農福連携推進アドバイザー 招へい講師



2月27日開催

第五回農福連携座談会 講師

一般社団法人 全国農協観光協会 谷川氏

～農福連携の取り組み事例から見えてくるもの～

高松矯正管区

～法務省における農福連携の取り組み～

- ・ 四国内における触法事例を交え農福連携取り組みについて情報提供

一般社団法人全国農協観光協会 谷川照美氏

～農福連携の取り組み事例からみえてくるもの～

- ・ 農福連携の歴史と全国事例を学びグループワーク実施

いの町ほけん福祉課 社会福祉協議会

～いの町の農福連携取り組み、支援事例～

- ・ いの町独自のお仕事体験事業紹介や福祉事業所や農家との連携事例を紹介

農福連携推進アドバイザー 効果①

アドバイザーの連携機関を座談会に招き講演を実施することで農福連携への取り組みが身近に感じてもらうことができ、不安点、疑問点を解消することができた。

アドバイザー自身が参加者と一緒に意見交換を行い、直接困りごとに対するアドバイスを伝えることで解決につながった。
(B型事業所 風等・・・)

農業分野、福祉分野だけでなく、さまざまな機関への参加を促すことで、地域全体での取り組みが重要であることが認知された。

座談会や畝の会のつながりから新たに農業における収穫体験や袋詰め体験、定植体験をするようになり少しずつ新しい選択肢を提案できるようになった。

農福連携推進アドバイザー 効果②

アドバイザーから座談会の参加基準「農業と福祉を中心に他業種他機関の参加」をアドバイス

アナウンスにより生きづらさを抱え**躁うつ病を患ったシンガーソングライター**とつながる

高知へ期間限定移住を決定し安芸市へ

3カ月の農業体験を経て体調が回復

ヤマモトケイスケ - Keisuke Yamamoto 福岡出身のシンガーソングライター

- 15歳の頃、友人のエレキギターに触れた事で自分の中にある音楽に目覚める。その後ライブハウスでの演奏や路上弾き語りで自身の音楽性を高める。
- 大学卒業後、ギター片手に渡米。ニューヨークの地下鉄や公園での路上ライブを連日敢行。またメンフィスやシカゴにも渡り、セッションを重ね感性を磨く。帰国後、本格的に音楽活動を開始。
- 2014年、活動拠点を東京に移し、都内を中心に活動を展開中。
- 2017年4月5日、クラウン徳間ミュージックよりメジャーデビュー。
- メジャーデビューシングル「ひとつ星」



アドバイザーの活動から新たに音福連携が始まる



ハウス作業や袋詰め作業を
一緒に実施



伝統産業 土佐和紙の
原材料の加工作業



高知県内各所で
精力的にライブ活動



滞在中は地元
TVやラジオ
にも出演



2024年2月 コロナ鬱により生きづらさを抱え
東京から高知へ

絆ファームでゆるやか農業を実践しながら
様々な体験を重ねる

2024年5月帰京 全国のノウフクマルシェにも
参加し音福連携として発信者の役割を担う

農福連携促進アドバイザー 課題

農福連携の取り組みを実行し継続するためには地域の【福祉】と【農業】それぞれの分野が積極的に参加することが必須と考えているが、まだまだその両輪の足並みがそろっていない。

本取組への理解を深め積極的な参加を促すアナウンスが必要である。

各行政機関の管理職、幹部職への理解につながる機会が必要であり、ネットワーク会議等への参加機会を増やす。

昨年度は中央東農業振興センターからの依頼のみであった。
まだまだ本事業の認知が低いと思われる。

農福連携促進コーディネーター

農福連携促進 コーディネーター 状況

コーディネーター実績

	訪問事業所	訪問農家	その他訪問	マッチング
令和4年度	6回	37回	35回	2件
令和5年度	22回	88回	92回	1件

- のべ訪問回数月平均約14件
- 農家、事業所だけでなく、農福連携につながる様々な場面にコーディネーターとして出席、参加しており活動の認知向上および啓発活動に取り組んでいる。
- 県全域での活動でコーディネーター事業の啓発活動を実施しており、担当外地域でのニーズについては他のコーディネーターと連携して対応にあたっている。

農福連携促進
コーディネーター
効果

マッチング実績

3件

本事業**外**での
マッチング、就労実績

107件

こうち絆ファームへの視察
受け入れ 事業実施期間中

26件

農福連携促進 コーディネーター 効果

- 他県への視察、講演の際に高知県農福連携促進コーディネーター事業の名刺交換を行うことで他県同事業実施者との意見交換を積極的に実施している。



室戸市では



- 農業を通じて障害者らの就労支援や社会参画を図る「農福連携」を知ってもらおうと19日、室戸市内でナスの収穫体験が行われ、障害者ら約10人が思い思いに作業を楽しんだ。

同市の農福連携事業の一環。体験は同市吉良川町甲のナス農家、宮川隆広さん（48）が管理する約28アールのハウスで行われた。

参加者は、はさみでヘタの上部をカットし、一つずつ丁寧に収穫。「これは大きいからOK!」「小さいものはもう少し置いておこう」と見極めながら、夢中で作業した

いの町では



- いの町あったかふれあいセンターとこうち絆ファームが連携し、日高村の農業ハウスで子供から高齢者まで約50人を招待してナスの収穫作業を実施。農福連携の啓発活動の新しい取り組みとして今後も継続して実施予定。コーディネーターが間に入り、いの町独自の農福連携コーディネーターとの連携も実現できており、毎年恒例行事として継続予定。

いの町では



いの町波川の通所介護事業所「あがわ」で、認知症患者がナスの袋詰め作業を行っている。一般社団法人「こうち絆ファーム」（安芸市）との農福連携で、町の提案を受けて今春から実施。事業所は「利用者の会話や笑顔が増え、生きがいにもつながっている」と効果を実感している。

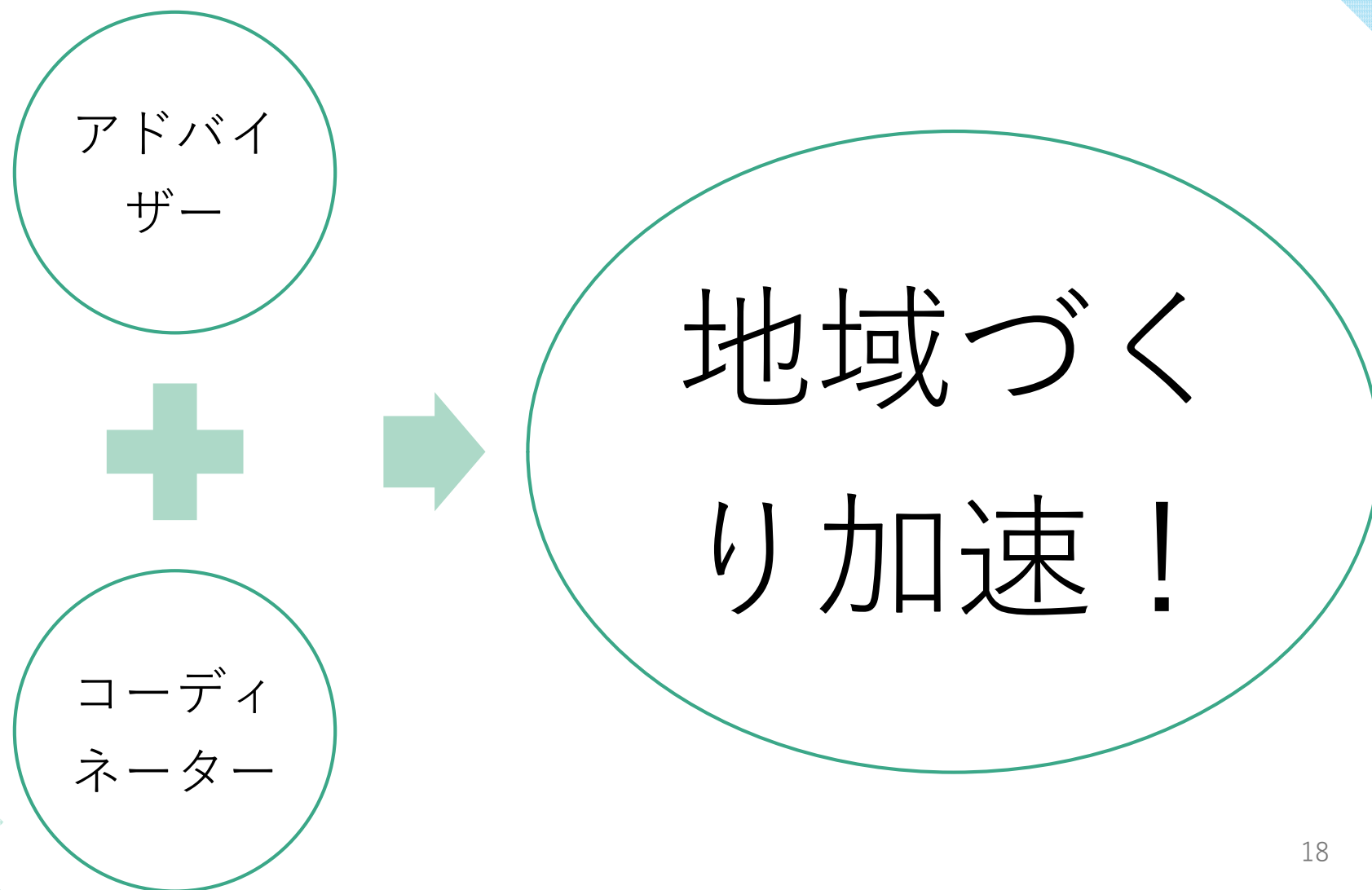
障害やひきこもりなど生きづらさを抱える人たちを農福連携で支援する絆ファームと町は2021年に連携を開始。絆ファームが23年に開設した就労継続支援B型事業所「TEAMいの」（同町枝川）を拠点に、利用者は地元特産の白芽芋、オクラ、大根といった野菜の植え付け、収穫、袋詰めなどを行っている。

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of several concentric, overlapping circles in various shades of blue, creating a sense of depth and movement.

農福連携促進 コーディネーター 課題

- コーディネーターの実態として福祉事業者が中心となっており、農業分野への取り組みが不足している。
- コーディネーター間の取り組み状況に関する情報共有が不十分。訪問進捗、マッチング好事例などを共有できるコーディネーター間の連携が重要。

事業を実施して全体効果



連携の拡大

本事業を通じてまだ農福連携に舵を切れていない自治体や農家、事業所とつながるきっかけが多く生まれた。このことにより事業所単体の活動では実現に時間を要した多種他機関との連携が加速。



アドバイザー参加の座談会では農業、福祉以外の法務省、農協観光協会など地域をこえた連携を参加機関に提供し実現できた。

コーディネーター事業では農家、事業所の生の声を聴き、単なるマッチングに限定せず、そのまま就労につながるなどの実績を挙げている。本来の成果としてカウントできないケースもあるが、地域づくりに大きく貢献できており、県域で好事例を生みだしている。

各事業の今後

- 引き続き継続しながらさらに取り組みを加速させる必要がある

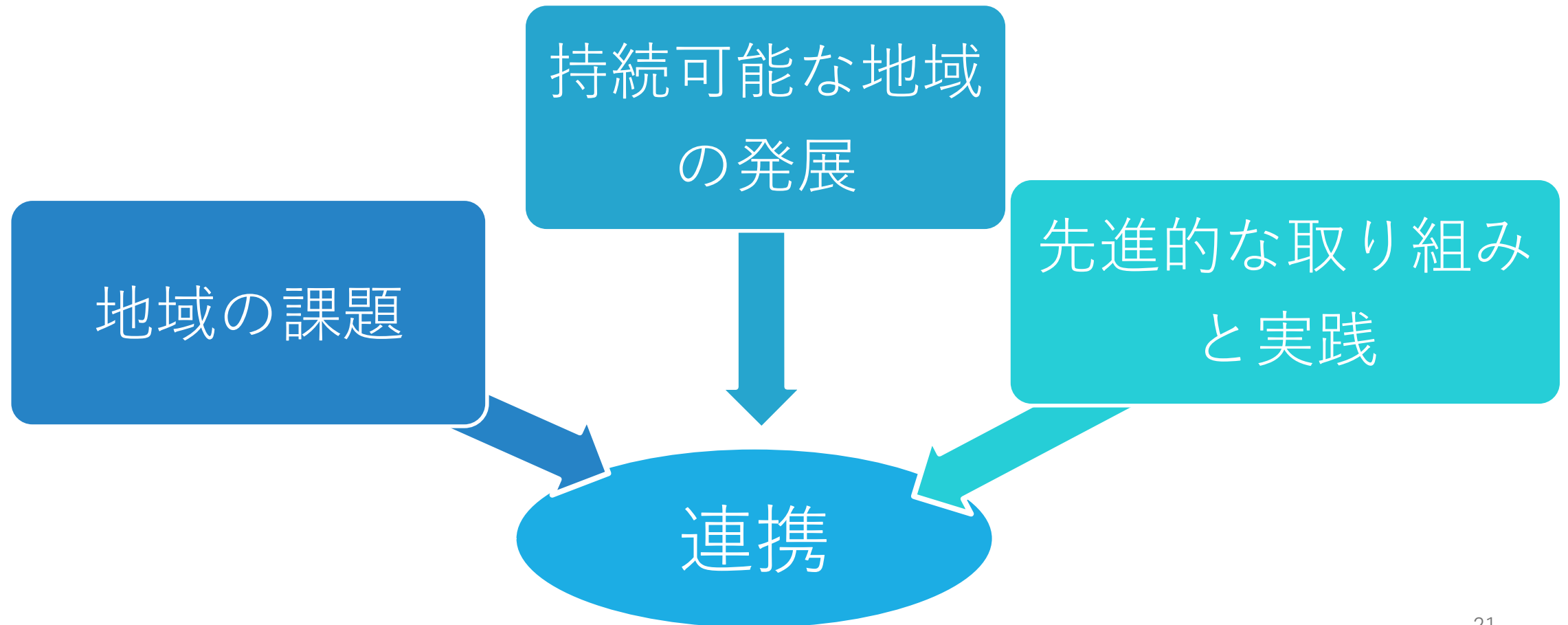
- 「日本一の健康長寿県づくり」柱Ⅱ 51P

農福連携の取り組みが進んでいない地域においてアドバイザー等を活用し、地域の取り組みを推進する農福連携支援会議の立ち上げ等を支援を具体的に計画立案

- 農福連携促進コーディネーターが作業受託を促進 農家⇔事業所に限定せず水産業への展開や、引きこもり状態の方の体験就労の場を拡大し本事業の成果としてマッチングを可能とできる制度へと進化させる必要がある
- 安芸福祉保健所で「ここから東部ネットワーク会議」、中央東福祉保健所で「らんまんネット」、須崎福祉保健所で「だんだんネット」など地域での生きづらさへの理解促進勉強会がある。まだ立ち上がっていない福祉保健所管内で本事業を活用し早急に立ち上げていく必要がある。

連携の重要性

単独では課題解決から様々な取り組みを継続させていくことが困難



アドバイザー、コーディネーター事業で目指す形

他業種多機関との連携（マッチング）の拡大を目的として本事業の取り組みを継続！

